

学研春秋

第73号

令和7年(2025年)
3月発行

題字: 高橋秀鋭
(号 洋風)



80回記念大会参加者氏名 (会員60名 敬称略)

<講師> 司法書士・東大阪プロジェクト代表 福村 雄一

<来賓> (株)学研ホールディングス 代表取締役社長 宮原 博昭 (株)学研ホールディングス 執行役員 荒井 邦弘
〃 執行役員 丸山 洋 〃 執行役員 谷口 正一郎

<会員> 秋谷俊之 安部隆 阿部利隆 荒井久男 安藤昭寿 安藤昌和 飯田弘 伊與部史朗 遠藤暢喜 遠藤久光 大井恒晴
大久保匡信 大橋敏剛 忍足恵一 甲斐田陸記 加藤建二 金子尚道 河崎三千夫 川西義規 川村正孝 北野行二 木目田博
紀本智三郎 倉持三郎 黒崎輝雄 小池博 小西貞人 小林民夫 酒井毅 塩沢和雄 篠崎作三郎 清水春樹 白石一清 鈴木昭三
瀧澤眞 田中勲 谷口裕治 谷口義博 反頭義光 堤満弘 中居栄太郎 永松久幸 中森知 西島一 野村耕司 原正 原田耕一
平野光徳 日向邦夫 福山通彦 細井伸一郎 牧野重夫 真当哲博 丸山尊義 村上裕也 森一郎 守田志郎 安威誠 吉羽文雄
和田保男

第80回記念 秋季大会を 学研本社で開催



第80回秋季大会は、令和六年十月十九日(土)に、学研本社ビルにて、会員60名が参加して開催されました。学研ホールディングスからは、宮原博昭代表取締役はじめ四名の方々に臨席していただきました。

記念撮影の後、宮原社長のご挨拶をいただき、引き続き、福村雄一氏に「終活を学び、未来をつくる」と題した講演をしていただきました。

第一部は、先ずこの半年の間に逝去された七名の方々のご冥福をお祈りして黙祷をささげました。続いて、安部春秋会会長の挨拶があり、そのあと、新入会員で大会初参加の北野行二さんに自己紹介をしていただきました。次に白寿(99歳)を迎えられる河崎三千夫会員にお祝いが贈られ顕彰しました。第二部は13階に移動し、冒頭に、丸山執行役員、新井執行役員、谷口執行役員からご挨拶をいただきました。懇親会は、吉羽文雄さんの乾杯の発声でスタート。弁当をいただきながら、楽しい歓談のときを過ごしました。

その後、ビンゴゲーム、抽選会と賑やかに進行し、「学研社歌」「学研音頭」「ふるさと」を歌ったあと、金子尚道さんの閉会の挨拶で終了しました。

会員には学研ホールディングスから提供された本や福村氏の「終活大全」と80回記念の紅白まんじゅうをお土産にお持ち帰りいただきました。

学研春秋会第80回記念秋季大会 会長挨拶

学研春秋会会長 安部 隆



皆さん、おはようございます。今日の80回記念・秋季大会には60名の方々が参加されています。久しぶりにお元気なお姿を拝見して大変嬉しく思っています。

先ほどは、福村先生にご講演をいただきました。私も含めて今日ご出席のほとんどの方にとって大いに参考になるお話をしていたいただき、有難うございました。福村先生には、2部の会食にもご参加いただけるとのことですので、最後までお付き合いです。帰りには、福村先生の本をお持ち帰りいただきますので、皆さん、是非参考してみてください。

より御礼を申し上げます。

今回は、80回の記念大会というところで、長年この会の継続のためにご努力くださった先輩方にも感謝したいという思いを込めまして、「80回記念の紅白饅頭」をご用意させていただきました。お帰りの際にお持ち帰りください。

加えて、今日もご出席いただいておりますが、学研春秋会の第5代目の会長を務めて下さった河崎三千夫さんがめでたく白寿をお迎えになることを祝して特別の顕彰をさせて頂いたかどうかと思っております。ご諒承ください。

時間もありませんので、一つだけ現在すめようとしていたことをお話しさせて頂いたと思います。それは、学研春秋会も「円」を立ち上げる時期に来ているのではないかとということで、その準備を始めました。費用との関係もありますので具体的な形はまだ決めておりませんが、来年の夏頃までには、「円」を通じてイロイロ情報を発信していけるようにしたいと思っております。ご期待ください。

それからもう一つ、再度会員の「増員」について皆さんのご協力をお願いいたします。4月以降、7名の新入会員があら

過去最高の売上げを達成

学研ホールディングス代表取締役社長 宮原 博昭



おはようございます。先輩諸氏の皆様の前で話すのは照れくさいのですが、2026年4月に学研も創立80周年を迎える時期になりますので、あらためて皆様にお会いしたく思い、まいりました。

会社の業績について資料を作ってきましたので、これを見ながら聞いてください。

うれしいことに今期は、過去最高の売上げを達成しました。これまでの最高は、1990年45期の1726億でしたが、今期は1860億になりました。私は社長になって15年目になりますが就任時には、まず先輩方が築いた売上げに届くのが責務であると思っていたので、何とかそこまで行ったことを、心から嬉しく思っています。

ただ、1980年過去最高利益の120億にはまだ届きませんが、私の代では無理かもしれませんが、次の社長の代には、たぶん達成してくれることと思います。学研は、復活してきているということを、受け止めていただければ幸いです。

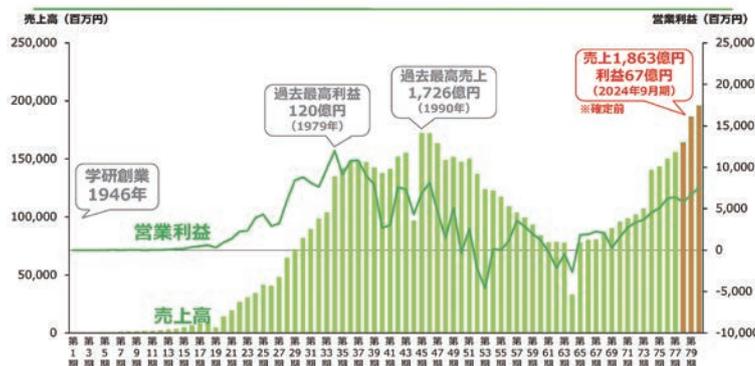
過去を振り返れば、ピーク時の売上というのは、出版事業が7割以上だったのですね。私が社長に就任した時は、教室事業が25%で、新興事業ということになっていました。私は教室事業出身ですから、教室のお金を介護事業に回すという大きな決断をしたわけです。当時財務担当取締役だった中森知さんと木村路則さんの許可を得たからこそできた決断です。外部環境を見た時、高齢者が増えていくというので、そこに注力しました。そしてちょうど今、医療と教育

とが半々という形となり、バランスがよくなっています。

介護事業の方は、木村路則さん、鈴木祥夫さん、そして現在学研ホールディングス常務取締役の小早川仁と三代で成功したサービス付き高齢者住宅と、今後五人に一人が認知症になるということで、認知症対策事業のメディカル・ケア・サービス株式会社に任せてもらい、現在に至ります。

また、出版不況が長いと言いますが、出版もしっかり伸ばしていきたいと思っております。文庫という教科書準拠ものを作っ

学研グループ業績推移。今期は過去最高売上を超える計画値。



終活を学び、未来をつくる

司法書士・東大阪プロジェクト代表 福村 雄一



ている会社が入ってきています。さらには、今日出席している新井執行役員が代表取締役を務めている地球の歩き方社が絶好調で、さまざまなヒット作を出して業績を上げております。教科書は今回の採択が厳しく、惨敗という状況でした。

園・学校ものもなかなか収益が出ない状態ですが、このあたりをどう変えていくかが、今後の課題になります。

最終的には、2030年にはグローバルの比率を30%くらいにして、2035年にはさらに50%くらいにまで持っていきたいと考えています。海外事業としては、教育や出版を主としながらも、一方では韓国・中国も高齢化が進んでいますので、介護の方も拡げていきたいと思っています。

国内の方は、教育と医療福祉が半々というバランスになっていますので、基本的なところはしっかりとできていると思います。一番皆様が気にされているのは株価だろうと思います。業績はいいのですが、今一つ株価がついてきていない状態になっています。必ず実力通りの株価になるよう頑張っていますので、引き続きよろしくお願いいたします。

(3) 第73号
最後に皆さん、一日でも長く生きていただいて、学研が伸びていくのをぜひ見守っていただきますようお願い申し上げます。

本日は貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございます。今年の5月に終活大全という書籍を出版させていただきました。私からは、終活の第一歩についてお話させていただければと思います。

私は司法書士を本業としています。司法書士はお金に関する専門家です。不動産の売買による名義変更、相続による各種名義変更、遺言作成などお金周りの仕事をしています。

ところで、みなさんは「人生会議」をご存知でしょうか？厚生労働省が普及にとめているのですが、まだまだ認知度が低いのが実情です。人生の最終段階においては約70%の人が自由に意思決定できない状態となります。どんな治療を受けたいか、あるいは、受けたくないか、といった大切なことを自身で決定できなくなるということです。そうすると、自分も、周囲の家

族も困りごとに直面します。残された家族が治療方針に関して後悔を残すということも起こっています。そうならないように、元気なうちから将来の医療や介護について繰り返し、繰り返し話し合っていきましょうという

のが人生会議です。人生会議は医療・介護に関する話し合いですが、終活も同じではないでしょうか。相続の現場でよくあるのが「どこに何があるかわからない」「財産についてどうしたいかを決めていない」という声です。お金の話をするのは縁起でもないといって避けられがちなのが日本です。特に、親子間でお金の話をするのは憚られるといった声も多いです。話を

するキッカケもなく、先延ばし、先延ばしになるのがお金の話で、いざというときに困りごとに直面する人がとても多いです。確かに縁起でもない話のように感じられるかもしれませんが、縁起でもない話は縁起でもないと言えらうちにしかできません。笑えらうちに対策を取るのが鉄則です。会場のみなさんのほとんどが生命保険や火災保険に入っていると思います。ですが、決して死にたいと思って生命保

険に入っていないでしようし、火事になってほしいと思つて火災保険に入っていないでしよう。終活も同じです。大事なものはしっかり備えて長生きすることです。終活は終わりの活動ではなく、未来をつくることです。親子で共に考えることで、親子関係をつなぎ直す時間をつくることができます。今日は終活の中

で、

① 認知症とお金、
② 相続とお金、
③ 遺言書とお金

の3つに関する話題提供をしたいと思います。

まずは、①認知症とお金についてです。認知症になると口座が凍結されてしまうかもしれないと聞かれたことがあるかもしれません。財産の持主の意思確認・本人確認は年々厳格になっています。家族が考える水準よりも金融機関や不動産会社の水準は高くなっています。家族内の判断が世間一般に通用するかどうかという点、必ずしもそうではないなっています。財産の持主の意思確認が不十分であると、預貯金は動かせない、不動産は売却できないという事態になりかねません。残高がいくら多くても使えませんし、価値が高い不動産であっても売却することができません。認知症になって財

産が凍結しないように、法律の仕組みを使った対策を講じるのも現実的な選択肢です。財産は使えるように、渡せるようにしておくことが大切です。

次に、②相続とお金についてお話しします。相続はみなさんよくご存知だと思います。預貯金や不動産のようなプラスの財産も、借金のようなマイナスの財産も一切を引き継ぐのが相続です。私も相続手続きの仕事をよく行っていますが、相続現場でのあるあるは、財産がどこにどれだけあるかわからないということ。ペーパーレスの時代になっており、また、インターネットバンキングなども一般的ですので、事前に家族と話し合っていたり、財産の一覧表といったものがない限り、どこに何があるかわからないということが少なくありません。また、家族が思う相続人の範囲と、法律上の相続人の範囲が異なるということも多いです。例えば、再婚した方が亡くなったとします。最初の結婚で子どもをもうけた後、離婚し、2度目の結婚でも子どもをもうけました。最初の結婚のときにもうけた子どもとは連絡を長年取っていません。こういったご家庭も増えてきています。相続手続きの窓口となるのは2度目の結婚のときの家族であることが通常です。その方々に「ご家族は何人家族ですか？」と尋ねると、最初の結

学 研 春 秋

婚のときの子どもは除かれていくことが多いです。2度目の結婚のときは家族が考える相続人の範囲は、法律上の相続人の範囲よりも狭いのです。法律上の相続人の範囲を伝えると、「まさか。」そんなことだとは思ってもみなかった。」という反応が返ってきます。自分に相続が起きたときに備えて財産の棚卸しをすることが大切です。そして、自分に相続が起きたときに誰が相続人となるかを知っておくことも大切です。残していく家族が困りに直面しそうであれば、是非終活の一環として準備を進めていくことをおすすめします。

最後は、③遺言書とお金についての話です。日本では遺言書を作成している人は少ないです。10人いて作成しているのは1人いるかなくらいの割合だと思えます。資産家に必要でも、自分には必要ないと考えられることが多いのが遺言書です。ですが、今後、遺言書はますます重要性を増していきます。相続が起きたとき、大きく分けて2つの道を通ることになります。1つは遺言書がある道、もう1つは遺言書がない道です。遺言書があれば基本的に遺言書の内容にしたがって財産が引き継がれます。誰に、何を、どれだけ渡すかが記載されていますから、その通りに相続手続きが進んでいきます。遺言書がなければ、

相続人全員での話し合いの結果によることとなります。ポイントには相続人「全員」によるというところがあります。先ほどお話ししましたが思いもよらない人が相続人となると話し合いがままならないということもあります。相続人の中に認知症のある人がいた場合も話し合いが困難になることがあります。遺言書があるかないかで相続手続きの困難さが変わることになります。ご自身の家族関係や親族との関係

性を考慮して、遺言書の必要性を見極めていただければと思います。みなさんの生活とお金の話は切っても切れない関係にあります。今のうちから準備を進めていただければと思います。参考になる書籍が終活大全です。是非読み進めていただければと思います。本日は誠にありがとうございます。



会員からのメッセージ

大会出欠の返信はがきから転載しました。スペースの関係ですべては掲載できませんでした。内容は昨年の10月の時点です。

味覚の老化が激しい。
(碓石眞彦) 元気です。



(石井泰之) 在宅勤務(4年程)が、9月末で終了となりました。

(伍井達朗) クロスバイクを乗り回して、体力維持に努めています。

(伊藤正宏) 9月に友人と新潟の魚野川へ釣りに行ったことです。川原で思い切りコケてしまい、右側大腿に青あざができるほどまともに岩にぶつけてしまいました。幸い、道具は無事でした。

(井上哲範) 関西支社での退職です。平素は、家内と仲良く暮らしております。免許証の更新も終わり、2027年まで乗れます。

毎朝8時前からJ5 I G I で7150MHzでオンエアしています。コールお待ちしています。

(岩野一夫) 多少の衰えはありますが、毎日元気で過ごしています。町の広報誌のCD化、本の朗読音声化や図書館での絵本

(青木隆明) 長く続けている4つのコースと、家内と共に続けている畑仕事。いつまでできるか？体力との相談となりつつありますが、一日でも長く続けたいものです。コロナがあけて、コースの本番がこの秋から春にかけて続きます。大忙し。幸せなことです。

(青柳努) 体調不良です。

(秋谷俊之) 今年の夏は古岡奨学会で、42名の高校生を引率しカナダ・バンクーバー・ナナイモに短期留学に行ってきました。私生活では週一回のジム通い(筋トレ、YOGA、スイミング)と週三回のアルコール摂取で、元気に過ごしています。

(安部隆) どうすれば会員数を増やしているのか。ずっとそれを考えています。皆さんの協力を心より願っています。一人一人のご紹介をよろしくお願いたします。

(荒木勝彦) 今年の夏は暑すぎて、ほとんど家にいました。運動は、朝夕の犬の散歩だけです。

(安藤昭寿) グランドゴルフや家庭栽培などを行いながら、元気で大過なく消日致しております。

(飯田弘) MLBを毎日楽しんでいます。最近、小便・大便・

学 研 春 秋

の読み聞かせなどをして、好きな囲碁や投資にも力をいれています。

(岩間勇水) 元気です。

(上野雅道) 毎日の飲酒とゴルフ、スポーツジムで、酒量と健康の維持に努めています。

(宇野修平) 元気です。あまり外出をしなくなりました。

(遠藤暢喜) 退職後2年目から月2回立川の朝日カルチャーセンターで仏教関係の講座に参加して聴講しています。また、学研時代の友人達と飲食会を共にして楽しく過ごしています。さらに、年に4回ほど会津(実家)に往来し、その地の友人との交流を続けています。

(遠藤久光) 只今八十九歳、あと一年で卒寿となります。日々の動作が緩慢となってきましたが、一日一日良い日が送れるよう心掛けていきたいです。

(遠藤博) ウォーキングを始めて16年が経過しました。今年になって極端に時間を要するようになり、10月からはリハビリの回数を増やして徐々に開始した72歳時に近づけられるように努力したいと思っています。

(大内章) 加齢と共に認知症への恐れや体力の衰えを感じつつ「人並みに」を目標に歩いて脚を鍛え、人とのコミュニケーションを大切に、話す・聞くなどを豊かにするように、自分なりに、加齢に無駄な抵抗(?)を試みている昨今です。

(大北義昭) 9月より「アニメルカフェ」をオープンします。町おこしに参加して、微力ですが頑張っています。

(大久保匡信) 最近ラインの友達が増えました。日々何人かの友達とラインで会話し、元気を頂いています。その中でも、中学のクラスメートの動画は、タイムリーですごく楽しい。本人の了解を得て他のライン仲間にも配信し、その反応もまた楽しんでいます。お互いを元気づけ、もう少し先の日本や世界を見たものです。

(大竹光夫) 9月には恒例の大学時代の柔道部同期の旅行で、伊豆土肥温泉に行きます。また、10月にはこれも恒例の学研京都支社有志OB会で有馬温泉に行きますが、それぞれの方と旧交を温めるのを楽しみに頑張っています。

(大谷義男) 脊柱管狭窄症で遠方まで歩けなくなりました。趣味の家庭菜園も腰を気遣いながら続けています。大会の記念写真を見ながら、当時を思い出しています。

(大西三喜男) 益明けの幹部社員を集めた会議で「盆休み中に1冊でも読書をした人」と聞くと、会議出席者15名中たった3名でした。一億総白痴化を心配しなくてはいいけません。「本を読め、人に会え、そして旅をしろ」とは文藝春秋の池島元社長言葉です。「本、人、旅」は、

人間の魂の触媒です。特に読書は人間の脳のビタミン剤。皆さん、読書の秋で、脳を益々活性化しましょう!

(忍足恵一) 孫がジャイアンツアカデミーに入団した。週に2時間ずつの練習の送り迎えが日課になった。先日、初めての練習試合があり、3番ショートで出場した。1回に、ショートフライを横つ飛びで捕ってアウトにした。その裏、センターオーバリーの大ホームラン1号を打った。半年間の成長にびっくりした。

(小野寺哲也) 特に報告することはありません。元気にやっています。

(甲斐田陸記) 今年3月で傘寿となり「人生百年時代」の中であと20年をどう過ごすか?とにかく健康第一で日常生活を穏やかに楽しく過ごしたいものです。80歳を機に体力の衰えをカバーするために、10年間休んでいたプール通いを始めました。水中ウォーク、バタ足泳ぎで90分運動。疲れを感じたが身体全体がスッキリ!!今後は週2〜3日をプールの日にする予定です。

(影山皓一) 朝からフル回転していたクーラーもやっとお休みできる秋が来ました。草や木は例年以上に繁茂しました。草刈りが追いつかなくなり、私の体力がもう限界に近づいています。とうとう除草剤を使い始めました。やっと少しは満足する

普通の庭になりました。

(加藤勇) 最近頭の中に社歌が響き渡る。大運動会の折、壇上で「創意をばいのちとし、糧として」コーラス部の歌声である。来年1月に卒寿を迎える。

(加藤建二) お陰様で、元気にしております。

(加藤信巳) フリー編集者となつて16年。お陰様で、多くの本を作らせていただいております。孫がその本を使っているのを見るのは、うれしいものです。

(金子尚道) 社会保険労務士・行政書士として、元気に活動しています。

(金丸幹尚) 今のところ、まだ元気です。

(河崎伊知郎) 学研を退職して7年近くになります。今も同業界の城南進学研究社で営業の仕事をしていきます。11月より学研エディケーショナルとコラボ事業がスタートします。時々、学研ビルに打合せに伺うのを楽しみにしております。

(河崎三千夫) 今年は連日暑い日が続き、一日一日を何とか生き抜くので精一杯。月1〜2回のマージャンが頭の体操。僅かな楽しみです。

(川西義規) 元気です。健康のため、毎日歩くように心がけています。

(川村正孝) 大会出欠のハガキを出したつもりで失念していました。認知症への進行もピッチが上がりが始めているようです。

(神田直樹) 学童施設での勤務を続けながら、次の目標である国家資格取得に向けてチャレンジの日々です。

(北野行二) 月一度の病院通い。天気の良い日は、カメラを持つての散歩を楽しんでいます。

(木目田博) 元気にしています。

(紀本智三郎) 先日車の運転免許証の更新手続きが終了し、91歳まで運転が可能となりました。しかし、身体能力の減退を痛感している現状では、本意ながら、近い将来の免許返納も止むなしと思っています。

(倉持三郎) 健康に配慮して、歳相応に元気で生活しています。

(黒崎輝雄) 古岡奨学会にお世話になってます。ようやく事務局長を秋谷氏に託し、週2日の勤務となりました。自分の時間が持て、読書・散歩・旅行と楽しんでいきます。

(黒羽正一) 検診時の尿酸値は投薬により39〜45と正常値。しかし、1〜2ヶ月ごとに激痛が発症。辛い痛み止めボルタリンSR錠1日3回服用で解消。10月6日NHKTV放送で「偽(にせ)痛風」の存在を識り、納得。

(小池博) 元気に生活しております。

(小島南海雄) 「転ぶな風邪ひくな義理を欠け」。岸信介の晩年の名言とメル友。でも「義理を欠け」は社会性を欠きそううで賛成できないなあ。と言いなながら、OB会欠席はどうしたものか

か。名言を覚えてくれた友人は昨秋「一ヶ月も風邪っ気が抜けない」と言っていたが…。本当に名言か？

(小杉皓男) 2024年(令和6年)8月22日、私の母が死去しました。105歳でした。「病気ではありません。すべての機能が止まった衰弱死です。」と担当の医師から告げられました。1918年(大正7年)生まれ。母の生きた時代を少しずつ辿ろうと思っています。

(小西貞人) 自宅が高台にあり、下が遊水池になっていきます。雨の日や出かけない日以外は、一周しています。約4kmあり、私の健康の源になっています。

(小林民夫) 以前からの腰痛に加え、身体のおちこちに不具合が出てきましたが、どうにか折り合いをつけて、元気に過ごしています。

(小林幹彦) 歩行に若干の支障があります。

(近藤新平) 昭和29年4月に学習研究社に入社して、60歳で定年退職となり、その後33年が過ぎ去りました。この間、OB会員として名前を連ねてきましたが、93歳となり、足・腰・膝等が痛くて満足に歩けなくなりま

(坂本登) 今年、大学ハンドボール部の50周年にあたり、後輩・現役と準備に余念がありません。また、大学学科の同級会も予定されており、こちらも準備中です。

備中です。

昔は考えられなかった古希を迎えた故でしょうか、人生百年時代！まだまだ頑張ります。

(佐々木英夫) 2年前に発症した脳梗塞のリハビリを兼ねて、自治会活動に熱中しています。

(佐藤浩二) 7月に、初の入院生活(手術を含めて)を経験しました。改めて、健康の大事さを感じるようになりました。今は、体調は完全とは言えませんが、日常生活に不自由はありません。

(佐藤敏和) 元気にやっています。

(塩田彦) とうとう「八十翁」になってしまいました。できるだけ外出してできるだけ人に会う機会をつくることを、モットーにしています。

(重野隆弘) あと2ヶ月で65歳です。財団勤務も終えます。5年前に体調を崩しましたが、何とか働いております。



身延山久遠寺のしだれ桜 (安部隆)

(篠崎作三郎) 最近、2、3カ所の公共施設で、PC以外にスマホの相談も受けざるを得なくなりまりました。お年寄りが中心

とはいえ、主婦も多いので、こちらも情報収集の毎日です。

(清水敏) 私もついに90歳になりました。足はガタガタ、耳は難聴、持病もあり、食事も以前の半分になり、体重も減りました。その上、女房は老人ホームに入所中です。幸い、隣に住むクリニックを経営する娘が毎日来て、何から何までやってくれます。心強いです。

(白石一清) 最近めっきり脚力が衰えております。春秋会の大会は毎回楽しみにしておりますが、あと、何回出席できるかが心配！

(杉山茂生) 昨年も暑い夏でしたが、今夏は例年にならない酷暑の日が続き、93年間で最も暑い夏だと感じました。地球の温暖化と言われていますが、この先どうなるのでしょうか？

しかし、何とか病氣もせず、週一回の体操教室とランドゴルフ、他にマージャンを楽しんでおります。

(鈴木禹志) 今夏イマジナスで開かれた「学研科学と学習ふろく展」を見学。改めて「百聞は実験にしかず」を目指した科学のふろくの圧倒的な力に感動しました。学習にいた私としては、学習の姫路城セットなどもとりあげてくれて、うれしかった。

(鱸洋之) 酷暑の中でも元気に、月10ラウンドゴルフを実行して、年間ラウンド記録を120に更新確実。何時でも・何処でも・

誰でも、老若男女とふれあって、健康維持・老化防止に努めています。千葉ゴルフの希望は、遠慮なくご連絡ください。

(関口二郎) 3年ごとに開催される新潟県里山の「トリエンナーレ越後妻有(つまり)大地の芸術祭」に3泊4日で参加し、最終日に体調を崩し、入院してしまいました。やはり無理は禁物。反省しきりです。

(瀧澤真) 多摩川の土手を散歩しつつボランティア中。もう少し頑張れそうです。

(田中勲) 鉄道の駅舎を見るのが趣味です。時々出かけて眺めてきます。そして日記風に「駅ナカ探訪」にまとめています。もうすぐ800駅になります。

(田中茂樹) 昨夏よりもなお酷暑の今夏です。家庭菜園の作物も暑さの影響で、思うように生育しません。これから、秋・冬物の栽培に入ります。体を壊さない程度に頑張ります。

(谷口裕治) 10年前に脳梗塞で左半身不随になりました。独自の「進化系瞑想」で驚異のリハビリにより現在の体幹を取り戻しました。今は、多くの人にリハビリや若返りをお伝えしています。

(谷口義博) これからサツマイモの収穫が始まります。収穫してから1ヶ月くらい経過すると甘くなり、食べ頃になります。なお会計担当として、年会費の値上げにご協力お願いします。

(反頭義光) 毎年、後期高齢者検診を受診していますが、昨年より良い検査報告書になっていて安心いたしました。これからも健康に気をつけたいと思います。

(塚本正人) この夏は、草刈りに追われ続けました。庭、畑、駐車場、小学校と中学校のグラウンド、自治会館の周辺…と、刈っても刈っても雑草は伸びてきます。暑さで人も野菜もぐったりする中、雑草の逞しさにうらやましささえ感じた夏です。

(堤満弘) 脱サラ起業して22年が経過しました。世の中、人手不足という事で、注文は来るけどこちらも人材難で、対応しきれないのが実状です。人材サービス会社のつらいところです。遅出勤、早帰り、毎日出勤しています。

(角田宏之) 小学校の特別指導員として、元気に児童達と毎日過ごしています。

(中居栄太郎) 毎日慌ただしく生活しています。本年は富士登山が出来ませんでした。3回目を目標に、体力・脚力を強化して備えたいと思っています。健康のありがたさを感じています。

(中沢陸彌) 放課後デイサービスの児童指導員と障がい者の移動支援のダブルワークをやっています。生涯現役を目指しています。
(中島正博) 9月19日、いつも

学 研 春 秋

のように、八王子市高尾にあるお墓の手入れ(草むしり)のために車で向かったのですが、現地が近づくにつれて急に空模様があやしくなり、間もなく、強風とともに大粒の雹が降り始めたのです。嵐が去って、恐る恐る車の様子を見ると、キズだらけの無残な姿。2年後の車検時には、車を手放す決心がつかま

るく、笑顔で元気で過ごせるよう努力しています。
(波多野英樹) 学研春秋を拝読し、皆さんお元気そうで何よりです。私は、最近足が弱りました。
(原正) 近頃、とみに脚が萎えてきました。
(東寛治) 異常気象下、体調崩すことなく、元気に暮らしています。

「湖畔の宿」などを歌っています。(代筆)
(松下勲光) 相変わらず野菜作りをしています。今年も猛暑が続き水不足で、里いもが不作です。反面、100株植えたオクラが毎日40本ほど取れて、9月26日現在で2800本の収穫となりました。
(眞當哲博) 近隣の保育園で、保育士ならぬ保育爺をやらせていただいています。現役時代の罪ほろぼしと答え合わせの日々です。

数年前に問題なしと判定された項目を繰り返し放射線検査。加齢黄斑変性症の眼球注射では、麻酔薬が効く前に注射。痛みにて声を上げるしまつ。そのため網膜に傷がつき、小さな文字が読めなくなり、感染予防のため、外出を控える指示が出ている状況です。
(村岡勝美) 孫2人が初めて1泊で泊りに来てくれ、また、花火大会や2泊の旅行と楽しませてもらいました。今のところ、健康です。

間が足りません。毎日を大切に、心穏やかに過ごすことが肝要かと。それにしても、世界各地での恐ろしい戦争、天災、日本各地での災害、地方の衰退、人心の乱れなどなど、心穏やかにおられません。残る人生、少しでも社会や人様のお役に立て、喜んでもらえる生き様を探求していきたい。
(吉田純三) 80歳を迎え、体調がよくありません。畑や庭の手入れも以前ほど細かく出来ません。特に今年の暑さには、自身も植物もダメージが大きく、来シーズンが心配です。

(仲田雄一) 春秋会入会以来大会を一度も欠席することなく楽しみに待っていました。春ごろより腰が悪くなり、同時に両足の具合が悪くなり、歩行に支障がでるようになり、懸命に治療に励んでおりますが、痛みが増している昨今です。誠に、残念の一言です。

(平野光徳) 妻の病状が小康状態なので、大会には出席します。
(日向邦夫) 石川県出身の私として、正月の能登地震で被害に遭った人達の悲しみもつかの間、記録的な大雨に見舞われ、悲しみが再び訪れました。一日も早い復興を願っています。石川県出身の私の優勝で元気を付けていただき、ありがたいです。
(福井康雄) 平々凡々たる毎日

(馬淵宏) 年相応に劣化が進んでいます。「元気ですね。」のお世辞言葉に励まされ、生きながらえている次第です。
(三浦茂) 現役で仕事をさせていただいています。今年3月にコロナに感染したこともあり、数年ぶりに検診をしたところ、「糖尿病」と診断され、食事に気をつかう日々です。検診は大事です。ね。

(水野隆二) 定年退職時、時間の有効利用として、娘の一言、「大人の絵本」を作ってみました。以来、今でも、絵心のない自分でもあきないで、図書館を通じて、資料を参考にしていきます。これからも、楽しみにしています。
(皆川昌勝) 皆さんに会いに行けないのが残念です。健康第一で頑張ってください。
(宮坂清茂) 相変わらずの病院通いです。主治医が毎年替わり、

約5ヶ月かかり、新たな法事もありました。秋のステージ演奏に向けて、連日ピアノを弾いています。
(守田志郎) 11月末、在任中の旧仙台支社同窓会が現地で開催されます。仙台では約30年ぶりとなりますので、懐かしい方達と会えるのがとても楽しみです。当方が、当時と比べ体重が大幅に減り、面影が薄れているのが心配です。
(森谷利道) 年齢と共に、体調が不安定になっている今日この頃です。
(安威誠) 古希を迎え、順調な滑り出しです。やり残したこと、やりたいことを考えると残り時

間が足りません。毎日を大切に、心穏やかに過ごすことが肝要かと。それにしても、世界各地での恐ろしい戦争、天災、日本各地での災害、地方の衰退、人心の乱れなどなど、心穏やかにおられません。残る人生、少しでも社会や人様のお役に立て、喜んでもらえる生き様を探求していきたい。
(吉田純三) 80歳を迎え、体調がよくありません。畑や庭の手入れも以前ほど細かく出来ません。特に今年の暑さには、自身も植物もダメージが大きく、来シーズンが心配です。
(吉羽文雄) 関東に来ました。
(和田保男) 夏はビールの美味しい季節なので嫌いではありませんが、今年の暑さは異常でした。涼しくなってから反動で疲れがどっと出ないように心がけたいと思っています。
(渡邊洋二) 体調管理に留意しながら、シニア社員として勤務中。学研中部本部への勤務も、いよいよ残り9ヶ月となりました。

(中村裕之) 地元高崎で、第50回高崎祭りに参加。山車を引くことができました。健康に氣をつけて、仕事とプライベートを頑張っておきたいと思っております。
(中森知) ここ伊豆で、約40坪の畑を借りて、素人無農菜野菜作りを楽しんでいます。夏は毎朝6時半から2時間ほど農作業をしています。今年も猛暑と台風、猪と害虫に苦しめられました。

(福山通彦) 先日、我家の配水管が壊れて水漏れが発生しました。もう寿命とか。私もそうならないよう、日々健康に氣をつけていたいと思っております。
(細井伸一郎) 日時の過ぎるのが速すぎて、困っております。
(堀真彦) いまだ入院継続中です。ベッドの上で、ケイタイで

(福沢弘行) 今年は天候に恵まれたのに、家庭菜園は逆に苦勞の連続でした。生産物は形が揃いですが、美味しく食していません。来年はどうするかこれから考えます。(中止も含めて)
(水野隆二) 定年退職時、時間の有効利用として、娘の一言、「大人の絵本」を作ってみました。以来、今でも、絵心のない自分でもあきないで、図書館を通じて、資料を参考にしていきます。これからも、楽しみにしています。
(皆川昌勝) 皆さんに会いに行けないのが残念です。健康第一で頑張ってください。
(宮坂清茂) 相変わらずの病院通いです。主治医が毎年替わり、

間が足りません。毎日を大切に、心穏やかに過ごすことが肝要かと。それにしても、世界各地での恐ろしい戦争、天災、日本各地での災害、地方の衰退、人心の乱れなどなど、心穏やかにおられません。残る人生、少しでも社会や人様のお役に立て、喜んでもらえる生き様を探求していきたい。
(吉田純三) 80歳を迎え、体調がよくありません。畑や庭の手入れも以前ほど細かく出来ません。特に今年の暑さには、自身も植物もダメージが大きく、来シーズンが心配です。
(吉羽文雄) 関東に来ました。
(和田保男) 夏はビールの美味しい季節なので嫌いではありませんが、今年の暑さは異常でした。涼しくなってから反動で疲れがどっと出ないように心がけたいと思っています。
(渡邊洋二) 体調管理に留意しながら、シニア社員として勤務中。学研中部本部への勤務も、いよいよ残り9ヶ月となりました。

(7) 第73号

(野村耕司) 80歳代が終わりに近づき、何とか90歳代を乗り切ることを目標に過ごしています。
(野村実) 元気で暮らしています。
(橋詰庸郎) サンデー毎日。明

「湖畔の宿」などを歌っています。(代筆)
(松下勲光) 相変わらず野菜作りをしています。今年も猛暑が続き水不足で、里いもが不作です。反面、100株植えたオクラが毎日40本ほど取れて、9月26日現在で2800本の収穫となりました。
(眞當哲博) 近隣の保育園で、保育士ならぬ保育爺をやらせていただいています。現役時代の罪ほろぼしと答え合わせの日々です。

数年前に問題なしと判定された項目を繰り返し放射線検査。加齢黄斑変性症の眼球注射では、麻酔薬が効く前に注射。痛みにて声を上げるしまつ。そのため網膜に傷がつき、小さな文字が読めなくなり、感染予防のため、外出を控える指示が出ている状況です。
(村岡勝美) 孫2人が初めて1泊で泊りに来てくれ、また、花火大会や2泊の旅行と楽しませてもらいました。今のところ、健康です。

間が足りません。毎日を大切に、心穏やかに過ごすことが肝要かと。それにしても、世界各地での恐ろしい戦争、天災、日本各地での災害、地方の衰退、人心の乱れなどなど、心穏やかにおられません。残る人生、少しでも社会や人様のお役に立て、喜んでもらえる生き様を探求していきたい。
(吉田純三) 80歳を迎え、体調がよくありません。畑や庭の手入れも以前ほど細かく出来ません。特に今年の暑さには、自身も植物もダメージが大きく、来シーズンが心配です。
(吉羽文雄) 関東に来ました。
(和田保男) 夏はビールの美味しい季節なので嫌いではありませんが、今年の暑さは異常でした。涼しくなってから反動で疲れがどっと出ないように心がけたいと思っています。
(渡邊洋二) 体調管理に留意しながら、シニア社員として勤務中。学研中部本部への勤務も、いよいよ残り9ヶ月となりました。

間が足りません。毎日を大切に、心穏やかに過ごすことが肝要かと。それにしても、世界各地での恐ろしい戦争、天災、日本各地での災害、地方の衰退、人心の乱れなどなど、心穏やかにおられません。残る人生、少しでも社会や人様のお役に立て、喜んでもらえる生き様を探求していきたい。
(吉田純三) 80歳を迎え、体調がよくありません。畑や庭の手入れも以前ほど細かく出来ません。特に今年の暑さには、自身も植物もダメージが大きく、来シーズンが心配です。
(吉羽文雄) 関東に来ました。
(和田保男) 夏はビールの美味しい季節なので嫌いではありませんが、今年の暑さは異常でした。涼しくなってから反動で疲れがどっと出ないように心がけたいと思っています。
(渡邊洋二) 体調管理に留意しながら、シニア社員として勤務中。学研中部本部への勤務も、いよいよ残り9ヶ月となりました。



80回
大会風景
(敬称略)

黙禱



来賓挨拶



(丸山執行役員) (新井執行役員) (谷口執行役員)

新入会・初参加挨拶

白寿の顕彰



(北野行二)



(河崎三千夫)

司会



第二部司会
(伊與部史朗)



第一部司会
(忍足恵一)

人気のお弁当



平林様の第1部「販売局創世期」、田中様の第2部「辞典の高校促進」を引き継ぎ、第3部「世の変化に対応し激動を経て現在に」を黒崎が担当させていただきます。

1976年入社即大阪支社販売局へ配属となり、奈良県、和歌山県担当となった。当時は雑誌中1コースの拡販の為、県下全書店を訪問した。それこそ2坪ぐらいの小さな店まで訪問し、周辺の家庭環境を把握した。取次に新人社員が入ると、書店挨拶の同行を頼まれ、新入社員教育の一端を担った。総合雑誌の低迷から年代は若干曖昧ながら1980年代後半中1コースの休刊が決まった頃が市場の激変の始まりであったと思う。

1990年代初頭には支局制度廃止が決まり、激震の第1幕であった。それまでは児童書・学参・定期雑誌の売り上げに上

春秋ラウンジ

会員皆さんの投稿頁です。
エッセイ・記録・紀行・
趣味・自慢・秘話など歓迎。
1編400字詰め2枚以内。
投稿多数の場合は、掲載できないこともあります。

『販売局の想い出』⑤

黒崎 輝雄

乗せすべく拡販商品を企画し販売促進をしていたが、時代は核家族化と家のセキュリティの観点から、お客様の家のドアが開かなくなり、書店の外商活動が思うようにはかどらなくなった。年によっては拡販商品が当たり、大きな利益を出した年もあったが、振幅は大きく安定した利益体制を築けず、店売志向を目指した。編集の近くに営業本体を置き、新刊情報をいち早く書店に届ける事と書店現場で何が売れているか？を編集に伝える事を第一目的とし、支局を廃止し営業部門は本社に集結した。

激震の第2幕はスマホの登場だ。情報系雑誌が軒並み売れ行き不振となり、当社も定期雑誌(ムックも含む)をワンパブリッシングに移管し、切り離したことだ。店売志向の中、「いつでも会える」「カービードァンス」「骨盤まくら」等ミリオンを超える出版もあったが、売り上げを上げるため、一般書を拡充しムック等の新刊点数は増やしたが、返品を含めると利益面では安定した構造にはなり得なかった。

現在は児童書・学参を中心に身を細くしたが、利益面では今期は厳しいと聞いているが、予想の範囲内で推移できていると思われる。また「地球の歩き方」外国編はコロナで需要が少ないものの、コロナ禍地元を探索し



抽選会大当たり!!



ビンゴ



歓談



社歌熱唱



また会いましょう!



閉会挨拶
(金子尚道)

素敵な賞品



お土産の
紅白まんじゅう

また、これらのふろくができるまでを、①編集長の手書きの企画書、②試作、③設計(デザ

入口近くには、「4年の科学」のふろくだった顕微鏡を巨大化したものがあったり、鏡の力で角度によって何人にも見える体験コーナーなどもあって、来場した子どもたちも喜んで参加していました。

2024年の夏、杉並のイマジナスで開かれた「学研 科学と学習 ふろく展」では、まず会場に並べられた約400点もの実物のふろくに圧倒されました。準備に4年ほどかけたとのことですが、これまで見たことのない大がかりな展示でした。

鈴木 禹志

「学研 科学と学習
ふろく展」を見て

現役諸君の健闘を心より応援したい。

ようというニーズから国内編、中でも地域を限定したものの売り上げが良いと聞く。そして今、生成AIが普及し始めています。産業革命に匹敵するほど世の中が変わると言われており、出版の中でどう変わるか?まだ変化は見えないが必ずや影響はあると思う。

イン)、④金型の製作、⑤工場での量産と梱包、という段階に分けて説明してありました。うちやま・だいすけさんの「科学のふろくものがたり」も歴史がわかって、興味がありました。歴代編集長の「わたしが推すこの1点」のコーナーも必見でした。本誌のほうには、当時のまんが家さんやイラストレーターの第一人者のみなさんが参加されていたことも紹介されています。

私自身は、学習の別冊のふろくを担当していましたので、登呂遺跡や姫路城のセット、オカリナなどの楽器が展示されていて、懐かしく思いました。当時の読者が、「科学」のふろくを手に入れると、「学習」のふろくが欲しくなる!との感想もうれしかったです。

「ふろく」ではなく「学習教材」と主張して、読者がワクワクする魅力あるもので、しかも「学び」に役立つものを作ろうとして、夢中になって頑張ったところが、よみがえりました。



駅ナカで発見⑬

田中 勲

山北駅（御殿場線）

「栄光のプラットホーム」

東海道本線国府津駅から箱根の外輪山を半周する形で回り、静岡県沼津駅まで約60kmを走るのが御殿場線である。2両や3両編成の電車が富士山をバックに走る姿はいかにもローカル風情がありほほえましい。

御殿場線は丹那トンネル開通前（開通は昭和9年12月）は、国内一の幹線である東海道本線として活躍した栄光ある路線だった。現在は全線単線だが、昭和19年までは全線複線であった。戦争に入り、不要不急線に指定され片側の線路を撤去され、横須賀線などへ充当された。

国府津駅から6つ目に山北駅がある。往時は鉄道の町といわれ、大正から昭和初期までは、350人も鉄道マンが住んでいたという。

3両編成のワンマン運転先頭車両から下車し、ホームに付んだ。上り線を待つ乗客が数人いた。周囲を山に囲まれた静かな環境で、どこか遠い町にきた感じがした。だが目が慣れてくるのと何か違和感を持った。下車した位置からホームはまだまだ先へ長く伸びていた。

山北駅が東海道本線として活躍していた時代、この駅は毎日長い編成の急行や特急が入線し、

このホームに横付けになった。栄光の面影をそのまま残していた。この長いホームをじつと眺めていたら、熱いものが込み上げてきた。



最後の写真展

原 正

退職前後から楽しみにしていた趣味生活に入り三十年余。「謡曲」、「写真」、「旅行」、「漢詩」それにドイツに移住してヨーロッパで「演劇界」に入った、娘と彼の地を楽しむために「ドイツ語習得」も加わって、忙しい老後となった。「謡曲」は初めは順調に推移したが、先生の逝去をもって七十五歳で終焉。「写真」も八十五歳を超えて、徐々に難しくなり、愈々引退の頃を迎えました。最後の「写真展」をどんなテーマにするかと悩んでいたところ、偶々、東博で今

春、「法然と極楽浄土展」が開催され、そこで撮影をさせていただけることになり、絶好のテーマと機会を得ました。その一端をご紹介します。

多くの寺院では、四月の第一週に釈迦の入滅を描いた、大きな「涅槃像」の画像を掲げます。四国、高松の「法然寺」では初代藩主、松平頼重が寄進した「造像」。「十王像」、「阿弥陀二十五菩薩像」等、壮大な群像を展示します。この内の二十六像が、今回、東博で展示されました。其のいくつかを、ご紹介いたします。



秋の散策



飛鳥山・ 渋沢栄一記念館巡り

11月15日（金）参加者10名が、JR王子駅に10時に集合した。心配された雨も上がり、飛鳥山ボランティアさんの案内で、紙の博物館、渋沢史料館などを見学しました。

新一万円の渋沢栄一翁の生涯と業績を偲ぶ有意義な一日を過ごしました。



春・秋・会・告・知・板

★春季大会は五月二十四日（土）
第八十一回春季大会は右記月日に、アートホテル日暮里ラングウッド（JR日暮里駅より徒歩3分）で開催します。
ぜひご出席ください。

★年会費納入のお願い
年会費未納入の方は、ぜひお早めに納付をお願いいたします。
お問い合わせは谷口義博幹事（会計担当）まで。
電話〇四五―五〇―一―九六〇

★会員ご逝去のご連絡のお願い
会員が亡くなられた場合、弔電、ご香料の手配をしています。

会員のご不幸を知られた方は速やかに安部会長まで、左記についてご連絡ください。
・ご本人名・喪主名・葬儀日時
・斎場名・斎場住所・電話番号
△連絡先▽電話・FAX
〇四八―八八三―一六二九

★会員勧誘のお願い
このところ、入会される方が少なく、会員数が減少気味です。学研を退職された方をご存知でしたら、安部会長までお知らせください。
★皆様のエッセイ、紀行などの投稿もお待ちしております。

発行部 学研春秋会事務局 〒336-0033 埼玉県さいたま市南区大谷 一五八六一三

発行人 安部 隆 編集人 森 一郎

幹事 谷口 義博 / 忍足 恵一 / 村上 裕也 / 菅原徳太郎 / 中居 栄太郎 / 伊與部 史朗 / 福山 通彦

印刷 株学研スマイルハートフル